

ソードワールド2.0シナリオ2 コボルト恋物語

推奨レベル：3

想定人数：3人

舞台：フェンディル王国 ディルクール

シナリオ概要：

最近コボルトのララの様子がおかしい。
仕事でもぼんやりしていて、たまに料理の失敗もする。
あんなに器用なララがどうしてこんな失敗を？
一体彼女に何があったのだろうか？

OP コボルトのララと冒険者

シーン概要：

『奇跡の六花亭』でララの異変を目撃する。
リレイアも頭を悩ませており、やや疲れが見えるである。

前回の冒険からD6／2日(1日50G)。

朝食を取ろうとする冒険者たちの耳にリレイアの悲鳴のような声が飛び込んでくる

『ちょっとララ！！掃除用の雑巾でお皿拭かないの！！』

『ごめんなさい！！リレイア様ごめんなさい！！』

『洗い物は後でいいから、食事をよそって。お客さん待ってるから』

『はい！すぐに用意します！！』

少しすると、リレイアが料理ののったお皿を持ってくる。

『結構待たせちゃってごめんね。ゆっくり食べて行ってね。』

料理は不可思議な味がする。

塩と砂糖を間違えていたり、皮が付いたままの野菜が入っていたり……

『大丈夫！？どうしたの！？』

異変に気付き慌てるリレイア。

『ララ！！あなたちょっとおかしいわよ！！ポーとしたり、失敗ばかりして！！』

皆さんにちゃんと謝りなさい！！』

『ごめんなさい！！ごめんなさい！！本当にごめんなさい！！』

『もう。今日はお店は良いから、ちょっと外でも散歩してきなさい。』

『はい…。本当にごめんなさい……。失礼します……。』

しょんぼりとしてララが店から出ていく。

シーン1 ララの異変

シーン概要：

昨日からララの様子がおかしいことをリレイアに聞かされる。

ララが出ていったあとの『奇跡の六花亭』はなんだかいつもより静かに感じた。

リレイアがため息をついて話し始める。

『ごめんなさいね。あの子昨日からちょっと様子がおかしくて……。』

『いま新しい料理準備するからちょっと待っててね。』

『それにしても、何があったんだろう……。』

『なんか心配だし、もし時間あるなら様子見てきてくれるかな？』

シーン2 悩めるララ

シーン概要：

ララは街の広場で花を見ながら落ち込んでいる。

冒険者が理由を聞いても「何でもない」の一点張り。

そんなところに、果物籠いっぱいフルーツを抱えたオスコボルトが通りかかりララに挨拶をする。

恥ずかしそうにしながらも挨拶をかえし、去っていくオスコボルトを名残惜しそうに見ている。

ララは彼に恋をしているようだ。

町の人に話を聞きながらララの後を追う。

ララは街の広場で花を見ながらしょんぼりしていた。

ララは冒険者たちに気付くと椅子から立ち上がり深々と頭を下げる。

『さっきはごめんなさい。ポーとしてて……とんでもないこと……。』

『あの、私は大丈夫です。別に何でもないんです。……はあ。』

冒険者たちが何かを尋ねても『何でもない』『大丈夫です』と返してくる。

そこに果物がたくさん入った籠を抱えてフラフラ歩くコボルトが通りかかる。

『おととと、ちょっと調子に乗って買いすぎたかな？あっ！！』

籠からリンゴが1個転がり落ちた。

するとすかさずララが駆け寄りリンゴを拾った。

『ありがとう！あれ君……確か昨日も……。』

ララが目を見開き、何かモゴモゴと口ごもると冒険者たちに隠れるように逃げ帰ってきた。

『あれ？驚かせちゃったかな？ごめんね？』

『僕行かなきゃいけないから……ありがとう。またね』

コボルトは尻尾を振りながら去っていく。

ララはその姿を潤んだ瞳で名残惜しそうに見送った。

シーン3 恋する乙女ララ

シーン概要：

ララの恋心を知った冒険者とリレイアがララの恋を応援する。

ララは恋をしている。それは間違いないようだ。

再びララに話をふるとララはモジモジしながら問いに答える。

『あの、私……彼の事が好き……なのかも。』

『昨日、リレイア様に頼まれた野菜を買いに行った帰りに彼にあったの』

『お互いたくさんの野菜を買っちゃって良く前が見えてなくてぶつかっちゃったの』

『二人で転がった野菜を一生懸命集めているときに、その……手と手が触れ合って……』

『急に身体が熱くなって、私逃げ出しちゃったの……。でも、気が付くと彼の事を考えてて……たくさん失敗してリレイア様にも迷惑かけちゃって……。』

『さっきも、彼の顔を見た瞬間に自分が燃えてるんじゃないかってほど熱くなっちゃって』

『そういえば……私ってば彼のこと何も知らないの……名前も住んでる場所も……。』

シーン4 イケメンコボルト テト

シーン概要：

ララが恋したコボルトの情報を集める。

テトという名前のコボルトで魔動機師スティーブの下で働いている。

また、好きな食べ物や趣味なども調べられる。

何はともあれ『奇跡の六花亭』へと戻ってきた冒険者とララを迎えるリレイア。

リレイアはララが恋をしていると知ると目を輝かせながらララを抱きしめた。

『ララ！あなたやるじゃない！！恋する乙女！！良いじゃない！応援するわよ！！』

『でも、相手のことは本当に何にも知らないのね？？』

『ねえねえみんな！ララの恋を成就させるわよ！！ほらほら例の彼のこと調べてきて』

▼冒険者が応援を渋った場合

『みんなだって、ララがこのままじゃ困るでしょ？またシュガースープ飲みたいの？』

『あーもうわかったわよ！手伝ってくれたら、ご飯サービスするから！よろしくね！！』

街中で聞き込みを行う。

【聞き込みポイント→下記のポイントでの聞き込みで情報を得られる】

- 公園・街中……食料品や雑貨を良く買っている目撃情報を得る。
- 八百屋……名前がわかる。
- 果物屋……住んでいる場所がわかる。
- 肉屋……好きな食べ物がわかる。
- 雑貨屋……欲しがっているものがわかる。
- 住処の近く……主人であるスティーブの人となりがわかる。

その他のポイントでの聞き込み【スカウト技能orバード技能】+知力B 目標値10でランダムに情報入手可能。

■コボルトのテト

1ヶ月ほど前に魔動技師スティーブと共に街にやって来たコボルト。
青みを帯びた白い毛を持つコボルトのオス。
魔動機研究に熱心なご主人のお世話をしている。

【情報】

名前.....テト
住んでいるところ.....街の西側にある住宅街の一角。
好きな食べ物.....ベーコンとチーズのオムレツ
今欲しいもの.....新しいフライパン
ご主人様.....魔動技師スティーブ

■魔動機師スティーブ

1ヶ月ほど前にテトと共に街にやって来た38歳の魔動機師。
1日中家に閉じこもって魔動機の研究や作成を行っている親父。
魔動機研究のために生きていと言っても過言ではない。
テトがいなくともおそらく人として生きていけないような人。
魔動機師としての腕は確からしい。
今は研究のために街を離れている。

シーン5 ララとテト

シーン概要：

テトの情報をまとめて、ララとテトを仲良くさせる作戦を練る。

『奇跡の六花亭』にて持ち帰ってきたテトの情報を共有する。

『みんなご苦労様！さっすが冒険者！今日のご飯はサービスにしておくよ！！』
集めてきた情報を聞きリレイアはご満悦そうである。
ララも目をキラキラさせながらテトについての情報を口の中で復唱している。
『情報は色々集まったけど.....みんなはどうするのが良いと思う？』

どうやってララとテトを引き合わせ、仲良くさせるかの作戦会議を行う。
1日経過する。

シーン6 ララとテト

シーン概要：

ララにテトのことを教えて引き合わせる。
なんだかんだで良い仲になるテトとララ。
翌日も会うことを約束する。

昨夜の作戦会議に従って行動を開始する。

茂みから指示を出せる。

- ・ 雰囲気の良い場所＋1
- ・ お弁当にオムレツ＋1
- ・ フライパンのプレゼント＋1
- ・ キュンとする仕種／セリフ＋1

テトは純朴爽やかな青年コボルトとして演じる。

上記行動を参考にして成功度を測る。

- ・ 2ポイント獲得で成功、3ポイント獲得で大成功、4ポイント獲得でパーフェクト
- ・ 1ポイント以下で失敗

成功した場合、ララとテトは仲良く会話をして翌日も会うことを約束する。

（お互いのご主人様のことや、好きなものについて適当に会話を行う）

失敗した場合、テトは不審そうな顔で去っていき、ララがとても落ち込む。

また、テトはスープをつくるから、豆とトマトを買って帰らないといけないと告げる。

シーン7 結果報告会

シーン概要：

シーン6の結果をリレイアに報告するシーン

成功時

リレイアは自分のことのように喜ぶ。

『良かったわねララ。あとはあなたの頑張り次第よ！』

『みんなも色々協力してくれてありがとうね！』

『今日はお祝いしなきゃ！ごちそう用意するから食べていくでしょ？』

リレイアとララのごちそうを堪能できる。

失敗時

リレイアはショックを受けるララを慰める。

そして冒険者たちに恨みがましい視線を送ってくる。

『ちょっと、みんながついていながら失敗なんてどういうことよ。』

『もっと真剣に取り組んでくれないとララがかわいそうじゃない。』

『バツとして今日はこれでも飲んでなさい（塩水を出す）』

『明日またリベンジ頼むわよ！！』

シーン8 待ちぼうけのララ

シーン概要：

ララがテトと会うために出かけていく。

しかし、待てどもテトは来ない。

家を訪ねても誰もいない。

この日は仕方なく帰るララ。

翌日のお昼過ぎ、ララは再びテトに会うために出かけて行った。

シーン5で失敗時はリレイアの氷のような笑みに見送られてついていく。

成功時にも付いて行っても構わない。

いつまでたってもテトは現れない。

ララは日が暮れるまで待ち続けるがテトが現れることはなかった。

テトの家を訪ねても留守のようである。

誰もついていかなかった場合、夜にララがしょんぼりと帰ってきて事情を話す。

シーン9 夜の街を駆けるテト

シーン概要：

夜中にテトらしき影を街中で見かける。
後を追っても途中で見失ってしまう。

その日の夜。

冒険者のうちの一人がテトらしきコボルトが走るのを見かける。

後を追っても途中で見失ってしまう。

※足が速い冒険者なら宿の窓からみかけるなど、追いつけないようにする。

シーン9 テトはどこに？

シーン概要：

テトの家を訪ねるが誰もいない。
慌てていたのか鍵はかかってなく、家の中は荒れている。
昨夜、家の明かりがついていて、ゴソゴソ音が聞こえたらしい。
警備員の話によると町の外へと出て行ったらしい。

翌日テトらしき姿を見かけたことを話すとリレイアが提案する。

『それじゃあ、テトの家を訪ねてみたらどう？帰ってきているかも知れないし。』

『あの、私も気になります。一緒に連れて行ってください。』

リレイアの勧めにララもおずおずと同意する。

テトの家を訪ねても誰もいない。

しかも扉には鍵もかかっていなかった。

家の中に入ってみると、なにやら慌てて探し物をしたかのように散らかっている。

ただ、ガメル銀貨の入った小袋が机の上に出っぱなしになっていたりすることから、金目当ての泥棒の仕業ではないように感じた。

家の中には魔動機のパーツやマギスフィアなどが転がっている。

近隣の住民に話をきくと昨夜家に明かりがつき、しばらくゴソゴソと何かをひっくり返すような音がしたかと思うと慌てて扉を閉めて走り去る音が聞こえたという。

門兵に話を聞くと荷物を背負ったコボルトが慌てて街の外へと出て行ったことがわかる。

しかし、そのコボルトはまだ帰ってきてないそうだ。

シーン10 テトの痕跡を追え

シーン概要：

テトを探して欲しいとララに懇願される。
街の外へ出てテトの痕跡を追う。

『みなさん……あの……テトを探してきてくれませんか？』

『なんだが嫌な予感がするんです。』

『あまりお金はありませんがお礼もいたします。』

『だから……お願いします！！』

涙を堪え、服の裾を固く掴みながら懇願するララ。
具体的な報酬を要求するのであれば、パーティー全体で1000ガメルを提示される。

▶依頼を引き受けた場合

『みなさん……テトをよろしくお願ひします！！』

▶依頼を断り、かつテトを探しに行かない場合

『わかりました……もうあなた方には頼みません！！自分で行きます！！』

ララは泣きながら街を飛び出していく。

それでも街を出ない場合、シナリオ終了バッドエンド。

2度と街にテトとララとスティーブが帰ってこなくなる。

シーン11 テトと蛮族

シーン概要：

テトの痕跡を追って、蛮族の隠れ家にたどり着く。

中からテトの悲鳴が聞こえる。

蛮族にいじめられているようだ。

またスティーブも一緒に捕らわれているようである。

街の外に出てテトの痕跡を探す。

探索判定で8以上で小さな足跡と、豆が転がっているのが見つかる。

豆は道にパラパラと落ちていて、追跡は容易そうである。

街から1時間ほどあるいたところで横道にそれ、林の中へと続いている。

うっすらと人が踏み分けたような道が続いている。

痕跡を辿っていくと、やがて小さな遺跡が見えてきた。

崩れた石柱の先には地下へと潜る入り口が見える。

遺跡の入り口にはボガード3匹が見張りに立っている。

VS ボガード×3

ボガードの1体は手番で仲間へ襲撃を知らせに行く。

シーン12 テト（とスティーブ）救出作戦！

シーン概要：

蛮族を倒してテト（とスティーブ）を助ける。

ボガードソーズマン（剣の欠片×4・HP+20）

ボガード×3（襲撃を知らせに行くことに成功したら+1体）

遺跡の道を進むとやがて広間へとたどり着く。

そこにはボガードソーズマンが2体とボガードが2体待ち受けている。

ボガードソーズマンのうち1体は他方よりも気迫に満ちている。

■襲撃の知らせを受けている。

蛮族たちは戦闘態勢が整った状態で待っている。
ボガード1体が前面におり、そこから5m離れた位置にソーズマン2体がいる。
入り口のすぐ左右にボガードが待ち受けている。
危険感知11に失敗すると不意打ちされる。

PC達と先頭のボガードの距離は10メートルほど

テトが部屋の隅に転がっている。

■襲撃の知らせを受けていない。
部屋の中央ではボガード2匹がテトで遊んでいる。
そこからさらに10メートルほど離れた場所でボガーズソーズマンが武器の手入れをしている。
ボガードまでの距離は10メートル。

シーン13 蛮族の目的は？

シーン概要：

蛮族たちを倒して、テトとスティーブを助ける。
蛮族たちの目的がわかる。

蛮族たちを倒し、テトを助け起こす。

『あ……あなたたちはララの知り合いの方々……危ないところをありがとうございます。』
『この扉の先にご主人様が閉じ込められています。鍵はあのボガードが持っていたはず。』
扉を開けるとスティーブが縄で縛られて転がっている。

スティーブは弱弱しく目を開けるとかすれた声で冒険者に告げる。
『……お腹が空いた。』

スティーブとテトが経緯と事情を話してくれる。
スティーブはこの遺跡の噂をきき、調査にやっていた。
枯れた遺跡ということは知っていたが、街から離れすぎておらず、広いことから実験場として使えるのではないかと思ったとのこと。
テトは毎朝必要な資材と食事を遺跡へと運び込んでいた。

昨日、不運なことに蛮族の一団が急に現れ、スティーブとテトは捕らわれてしまった。
そのまま殺されると覚悟していたが、蛮族たちはスティーブについて色々尋問してきた。
そしてスティーブがひきこもりの変わり者であることを聞くとしばらく思案したのち、
殺されたくなければスティーブの服や身の回りの道具、そして食事を急ぎ持ってくるように命令した。
またこのことを誰かに話した場合も殺すと言い含めテトを解放した。

テトは恐ろしさでご主人様の命を救うべく急ぎ街へ戻り、指示された荷物を持って蛮族たちの下へと戻った。

テトが持って帰ってきた食料をむさぼりながらボガードソーズマンの1体は、拠点に戻り
レッサーオーガーを連れてくるよう命令した。
おそらくスティーブと入れ替え街に侵入させようとしていたものと思われる。
なにやら蛮族たちが何か企てているのかもしれない……。

エンディング ララとテト

シーン概要：

ララとテトは事件後さらに仲良くなったようである。

蛮族の侵攻未然に防ぎ、スティーブを助けたことによりPC1人あたり1500Gの報酬

街へ帰ってきた一行。
門の前ではララとリレイアが待っている。
冒険者たちの姿に気付くと走り寄ってくる。

『テトー!!!無事で良かった!!!』

『ララ!!!心配してかけてごめん!!!』

抱き合う2匹のコボルト達。

『ほんと良かったわ。……それにしても随分ボロボロね。何があったの?』
事情を聞くにつれリレイアの顔がだんだんと強張っていく。

『……まさか蛮族がこんな街の近くにまで来るなんてね……しかもレッサーオーガかあ』

『しばらくは今まで以上に警戒した方がよさそうね。』

『他の冒険者達にも伝えて周辺蛮族の調査も行ったほうが良いのかな……。』

『それにしてもスティーブさんも生きて良かったわ。ちゃんと報酬は用意しておくから楽しみにしててね♪』

PC1人あたり1500Gの報酬

経験点 1000+倒した魔物Lv×10